

特集「レアメタルリサイクル」を企画して

特集担当編集委員 大矢 仁史

(社)日本粉体工業技術協会リサイクル技術分科会では、会員の要望に応じてレアメタルリサイクルを主要テーマの一つとしてきた。ここ3年は、年間3回の分科会の中で、2回はレアメタルをテーマとした講演会、見学会を開催し、そのほとんどが盛況となっている。

このように環境関連で注目を浴びているレアメタル分野では、数々の国家プロジェクトが行われ、平成20年度には、レアメタルリサイクルを意識した小型家電回収モデル地区が秋田県、茨城県、福岡県の3地域でスタートし、昨年度にはその地域が東京都、名古屋市・津島市、京都市、水俣市に拡大された。

そこで、本誌においても「レアメタルリサイクル特集号」を企画し、粉体関係者にレアメタルリサイクルに関して幅広い情報発信をすることとした。

(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 小林 幹男氏には「レアメタルの利用状況と資源的価値」と題して、レアメタル確保に社会的意義とレアメタルの国家戦略を概観いただき、その中でも最近特に注目を浴びているレアアース、インジウム、タングステン、リチウムなどの利用と資源の状況を解説いただいた。

次に、(株)リーテム 山本 佳子氏、中島 賢一氏には、「茨城県におけるレアメタルリサイクルの取り組み」と題して、環境省と経済産業省が推進している小型家電回収モデル事業として茨城県で行われている使用済み小型家電回収事業とその前処理、中間処理実験結果を報告いただいた。

(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター 板垣 成泰氏、服部 和孝氏、堀家 克己氏には、これも小型家電回収モデル地区として環境省、経済産業省から採択されている福岡県南部での使用済み小型家電回収事業の詳細な報告をしていただいた。

また、(株)イイジマ 原 康夫氏には、「地上資源の有効活用が日本を救う」のなかで、レアメタルのみならず金属など地下資源枯渇の問題がやがてリサイクルなど再生資源産業が将来重要になってくると、レアメタル、貴金属など有用物を多く含む自動車リサイクルの必要性和現状について講述いただいた。

最後に、東京大学 野瀬 勝弘先生、岡部 徹先生には、「自動車排ガス触媒からの白金族金属のリサイクルの現状と今後」と題して、白金族金属のリサイクルの必要性和自動車排ガスからの回収技術について解説をしていただいた。

新聞、雑誌などで目にすることの多いレアメタルに関して理解いただくとともに、各企業で働く粉体技術者がレアメタルリサイクルに興味を持っていただく一助となれば幸いである。また、今後もリサイクル技術分科会ではレアメタル関連の講演、見学会を積極的に開催していくつもりであるので、本号に興味を持っていただいた読者には積極的な参加を期待したい。